

## ファンボロー国際航空ショー2014

ロンドン事務所

2014 年 7 月 14 日から 20 日までの 7 日間、ロンドン郊外のファンボロー空港において第 49 回ファンボロー国際航空ショー2014（以下、「ファンボロー・エアショー」）が開催されました。国の国際戦略総合特区として「アジア No.1 航空宇宙産業クラスター形成特区」に指定されている愛知県、岐阜県、三重県及び名古屋市の担当職員が<sup>1</sup>GNI 欧州航空宇宙欧州ミッションとしてファンボロー・エアショーに参加しました。

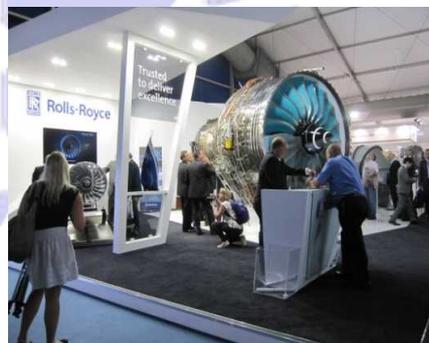
### ファンボロー・エアショーとは

ファンボロー・エアショーは、パリ・エアショーと交互に 1 年毎に開催される航空宇宙産業の展示会です。会場となるファンボロー空港はプライベートジェット専用空港で、通常飛行機が停留するエプロンには、あらゆる種類の航空機が展示されているため、そのまま展示会場となっています。そのほか、展示会場では様々な航空機部品からエンジンなども実寸大で展示されています。

主要メーカーは、展示会場とは別に「シャレー」と呼ばれる展示・商談スペースをっており、そこで重要な商談も行われます。期間中は、航空機のデモフライトが行われているので、商談やセミナーの音声が聞こえなくなることもあります。平日はビジネスを主体とした展示会ですが、最終日を含む土日は一般に公開され、デモフライトを楽しむ一般客も訪れ、多くの来場者でにぎわいます。



屋外エプロンでの展示



屋内展示の様子

### 日本の航空宇宙産業の集積地域としての中部地域

中部地域には、黎明期の航空機に必要な部材である木材が容易に調達できることから、戦前から飛行機の生産工場が立地していました。

今でも三菱重工業や川崎重工業をはじめとする航空宇宙産業の開発・生産拠点がおかれ、その関連企業も多く在籍しています。国内航空部品メーカーの多くは、すでに海外との取引を始めており今回のファンボロー・エアショーにも出展していました。



日本企業のブース

<sup>1</sup>GNI（グレーター・ナゴヤ・イニシアティブ協議会）…名古屋を中心に半径約 100 キロメートルに広がる地域をグレーターナゴヤとし、圏内の産業経済をより世界にオープンなものとして、世界から優れた企業・技術・人・情報を呼び込むために産学官が一体となって国際的産業交流を促進する活動を行っている。

## まずは日本の航空宇宙産業を知ってもらう

今回、ミッション団は航空宇宙産業への支援に係る情報収集のため、各国の産業クラスターブースを訪問し、互いのクラスターについて意見交換をしました。海外の航空宇宙関連メーカーに対する最終目的は、中部地域への企業誘致ですが、この分野における海外での日本の認知度がまだ低いことから、日本に航空宇宙産業に長けた地域があるということ PR しました。もちろん、海外企業に対し取引できそうな地元企業を PR することも欠かしませんでした。さらに、今年9月に名古屋で開催された航空宇宙産業商談会「Aeromart Nagoya 2014」への参加も呼びかけました。



企業ブースでの意見交換の様子

## 航空宇宙産業を次世代産業に

来年秋、試行フライトを迎える「MRJ（三菱リージョナルジェット）」は機体製造が日本国内（愛知県など）で行われ、話題となっています。地元自治体は、これを一つの契機にして、航空宇宙産業を自動車産業などに次ぐ次世代産業として大きな期待を持っています。

今回のミッション団の来英は、単一自治体だけでは支援困難な分野に県域を超えた自治体が連携することの重要性を印象づけるものでした。

(山田所長補佐 岐阜県派遣)